（様式 3）

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代 表 者 氏 名	金子迪大	所 属	京都大学大学院
研究会等名称	ポジティブ心理学研究会		
成 果 概 要	１）参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください） 会員　　名（うち認定心理士　　名） 非会員　　名（うち認定心理士　　名） ２）集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください） 【実施内容】 本年度は、2020 年 9 月 8 日～11 月 2 日、東洋大学でウェブ開催された日本心理学会第 84 回大会において、企画シンポジウム二件を実施した。これらの企画シンポジウムは、ポジティブ心理学研究会・日本心理学会連携企画として行われた。 一件目は「ダイナミックなポジティブ心理学」と題し、中川威先生（国立長寿医療研究センター、日本学術振興会）に感情の時間的変化、古村健太郎先生（弘前大学）に恋愛関係崩壊時のアタッチメント欲求の変化、高橋英之先生（大阪大学）に幸せを構築するために不可欠な物語の創発プロセスについて講演をいただいた。指定討論は島井哲志先生（関西福祉科学大学）にお引き受けいただいた。 二件目は「ポジティブ心理学における多様な感情経験」と題し、武藤世良先生（お茶の水女子大学）に尊敬関連感情について、高野了太先生（京都大学、日本学術振興会）に畏敬感情について、藤野正寛先生（京都大学）に感情経験としてのマインドフルネスについて講演をいただいた。指定討論は一言英文先生（関西学院大学）にお引き受けいただいた。 また、本年はウェブ開催であったため、二件のシンポジウムに加えて、座談会と称して企画者、発表者、指定討論者、を交えてざっくばらんにポジティブ心理学について語る動画を撮影し、シンポジウム期間中に限定公開を行った。 【成果】 上記のシンポジウムおよび座談会を通して、ポジティブ心理学の総論、各論双方について理解が深まったことが期待される。今年度は発表時点における聴衆との直接的なインタラクションが出来なかったが、発表者へ質問などがメールや大会の質問機能を使用して多数寄せられ、多くの方々に関心を持っていただき、また学びの場を提供することが出来たと考える。 【将来計画】 引き続き研究会として活動を続けシンポジウムを行い、日本におけるポジティブ心理学の拡張・発展に努める。特に今年度はコロナ禍における突然のウェブ開催で戸惑うこともあったが、逆にウェブ開催のノウハウを蓄えたため、今後は積極的にウェブも利用して活動を広範囲に広げていく予定である。		

（様式5）

2021年　3月　28日

日本心理学会研究会　　年度会計報告書

研究会名称　ポジティブ心理学研究会

研究会番号　20012

助成金額　¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2021年3月31日	返金（日本心理学会）	¥30,000
	支出合計	¥30,000